

7長理第2号
令和7年4月1日

会員各位

(一社) 長野県理学療法士会
会長 佐藤 博之
学術大会部 森本 正道

第53回長野県理学療法学会学術大会発表演題に対する表彰について

(一社) 長野県理学療法士会 学術大会表彰規定に基づき、令和6年7月7日に第53回長野県理学療法学会学術大会の発表演題に対する学術表彰選考会議が開かれ、以下のように決定されましたので報告いたします。なお、表彰式は、本年度、第54回長野県理学療法学会学術大会にて開催します。

最優秀賞受賞演題 (1 演題)

演題名：「急性期間質性肺疾患入院患者における歩行時の重度の呼吸困難感は1年以内の再入院と関連する」

演者所属：信州大学医学部附属病院

演者氏名：太田 浩章

5年間の200例近くのデータを多角的に解析された。あまり研究されていない急性期間質性肺疾患入院患者について、重度の呼吸困難感を伴う症例は再入院リスクが高いことが示された。少しでも再入院までの期間を長くするために、チームとして各専門職が包括的にアプローチすることの重要性を改めて考えさせられる内容であった。

優秀賞受賞演題(1 演題)

演題名：「心疾患患者の運動機能の改善は医療費削減に寄与する」

演者所属：信州大学医学部附属病院

演者氏名：山本 周平

ユニークな着眼点の研究テーマであった。研究の方法やデータの整理の仕方、結果、考察ととても丁寧に考えられていた。理学療法がしっかりと医療費の改善に寄与できる可能性があること示唆できたのも良かった。運動機能の改善により非心血管に由来する診療が抑制されたことは興味深い。

学術奨励賞受賞演題(2 演題)

演題名：「三次元動作解析装置を用いて治療介入を行った Osgood-Schlatter 病の一例」

演者所属：百瀬整形外科スポーツクリニック

演者氏名：新村 直史

多くの病院にはない評価機器にて、画像を取りながら患者さんにもフィードバックをして治療を行っている様子が分かりやすく示された。動作解析装置について参加者にも分かりやすく解説された。治療方針決定のプロセスが客観的評価に基づいて組み立てられており明確であった。理学療法評価の結果と動作解析装置の結果を統合し、的確に考察され、アプローチ方法についても的確で有効であったことが説明されていた。身体所見を数値化、可視化することで治療介入に役立てることが出来ていた。

演題名：「ロボティックウェアにより歩行能力向上を認めた一症例」

演者所属：千曲中央病院

演者氏名：伊藤 大樹

ロボットリハビリテーション、運動疾患への curara の利用の可能性を垣間見ることができる発表であった。当日は ASSIST MOTION 社の機器展示もあり、来場者も curara を見る機会が持てて良かった。シングルケースデザインの研究は、個人差はあるが、研究の結果から curara を使用した際の効果、効果の持続性がよくわかりとても有意義だった。発表は動画発表であったが、丁寧に語りかけられており、質疑も持ち時間をフルに使われるほど濃い内容のものであった。

特別賞受賞演題(3 演題)

演題名：「高齢大腿骨近位部骨折術後患者の早期歩行開始が歩行再獲得に及ぼす効果
～長野県データベースプロジェクト～」

演者所属：松本市立病院

演者氏名：中村 慶佑

大腿骨近位部骨折術後患者に対して、早期介入が大切であることは一般的には言われているが、数値にて客観的データを出していることは、早期に歩行を開始することが大切であることを再確認する機会を与えた。また、本研究における限界点をはっきり示されており、今後の課題が明確であることから、今後の研究に期待できる。長野県内の多施設での共同研究であり、参加施設から多くの質問が出され、発表者と参加者間で情報が共有されたことも良かった。

演題名：「初期及び進行期股関節症患者に対する外来理学療法
-介入 2 ヶ月後の疼痛・QOL・機能評価の変化-」

演者所属：三本柳整形外科クリニック

演者氏名：永井 洋

股関節症初期で手術前の介入は少ないが、患者教育という面での介入は大切である。介入により手術までの時間を延長させ、いい状態で手術が行えるように身体の機能を高めておくことの大切さを強調されていた。新たな知見を聴衆に与えられていた。今

後、症例を増やしてエビデンスが確立されることを期待する。

演題名：「心肺停止蘇生後の呼吸不全に対して排痰補助装置（MI-E）を導入した修正 5 カ月乳児の一症例」

演者所属：信州大学医学部附属

演者氏名：宮下 美奈

MI-E を乳児に使用し無気肺の改善を認められた貴重な症例発表であった。咳嗽反射がなく自己喀痰困難でさらに自発呼吸も認められない乳児肺に用いるためにMI-Eの設定に苦慮されたと思われるが、結果的に有害事象なく無気肺を改善できたことは今後の乳児症例に対してMI-Eが一手段であることが示された。理学療法における貢献性は高い。